

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ライフサポートセンターなごみ園			公表日	2025年2月22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	・個別支援室やグループ活動のスペースが分けて過ごしています。 ・同ースペースが狭い際は別室または屋外で活動しています。 ・ブレイルーム床とブラインドカーテンの改修が必要だと思います。	・子どもたちの安全を確保できる動線を確保していきます。 ・随時、道具や場所の改修を行っていきたいと思います。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	利用定員や子どもたちの支援の必要度に対して、十分な職員が配置されています。	引き続き突発的な支援が必要な場合でも対応できるよう、職員間の連携を取りながらサービスの提供を行います。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	・生活空間は子どもにとって分かりやすく構造化されており、バリアフリー化についても、出入口やトイレの段差解消、手すりの設置など一定の配慮がなされている。 ・怪我のリスクを考慮し設備の点検等行えています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	子どもたちが安心して活動できるよう努めています。	換気や温度管理にも配慮し、年間を通して心地よい空間を維持していきたいと思います。また、安全面にも配慮し、子どもたちがスムーズに移動できるように整備していくことを目指します。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	子どもが必要に応じて個別の部屋や静かな場所を使用できる環境を整えています。個々の特性や状況に応じて、落ち着いて過ごせるスペースを提供し、安心して活動に取り組めるよう配慮しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	定期的な会議やミーティングを通じて、業務の課題や改善点を共有し、職員が意見を出しやすい環境を作っています。	継続的な改善に向けた取り組みを進めていきたいと思います。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・職員でアンケートを参照しニーズを理解するよう努めています。 ・開示し、評価を理解しています。	すべての保護者の意見を十分に反映できているとは限らず、より多くの声を集めための工夫が求められる場面もあります。今後は、評価表の内容やフィードバックの方法を見直し、より円滑な情報共有と業務改善につなげていくことを目指してまいります。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%		必要に応じて運営方針の見直しや業務フローの改善につなげています。さらに、意見を取り入れた改善結果を職員へフィードバックすることで、継続的な業務改善のサイクルを促進しています。 今後も、職員が安心して意見を共有できる場を充実させ、より良い職場環境と支援の質向上に努めてまいります。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%		外部の専門家や関係機関から客観的な視点で評価を受けることで、日々の業務運営や支援の質を見直し、より良いサービスの提供を目指しています。具体的な改善策につなげる仕組みを強化し、継続的な業務改善に努めてまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・研修を受講する機会を積極的に確保しています。外部研修への参加を推奨するとともに、法人内での研修を定期的に開催しています。 ・様々なジャンルの研修を必修とし、取り組めています。	業務の都合上、すべての職員が研修に十分参加できる環境が整っているとは言えない場合もあります。より多くの職員が学び続けられる仕組みを強化していきます。
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	支援プログラムは、児童発達支援管理責任者を中心に子どもの成長や状況の変化に応じて適宜見直しを行っています。	より理解しやすい形式での説明資料の作成や、フィードバックを反映した柔軟な支援プログラムの運用を継続して行っています。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	・個々の子どもに対してアセスメントを実施し、子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しています。 ・本人、保護者に分かりやすい目標を設定し前向きなアセスメントを心掛けています。	子どもの成長や変化に応じた支援が提供できるよう努め、支援計画の質を向上させるとともに、保護者との連携を一層強化してまいります。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	職員間の情報共有を積極的に行い意見を交換しています。 また、支援の方向性や必要な配慮について職員全員で検討し、統一した支援が提供できるよう工夫しています。	十分な話し合いが難しい場合もあるため、今後は効率的かつ充実した意見交換ができる仕組みを整え、より質の高い支援計画の作成・支援を目指してまいります。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	計画の共有方法として、定期的な職員会議やケース検討会を実施し、子どもの支援方針や目標について意見交換を行っています。	職員間の情報共有の方法や頻度にはらつきが生じる場合もあり、さらなる共有の仕組みづくりが求められる場面もあります。今後は、記録の活用やミーティングの充実を図り、よりスムーズに支援計画が浸透し、計画に沿った支援が継続できる体制を強化していきます。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントと、日々の行動観察を活用したインフォーマルなアセスメントの両面から確認を行っています。	継続して、より効果的なアセスメント手法の活用と、職員間での情報共有の強化を図り、子ども一人ひとりに適した支援が提供できるよう取り組んでまいります。
適切な支援	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	子ども一人ひとりの発達段階やニーズに応じた支援目標を設定し、それに基づいた具体的な支援内容を明記しています。	計画の具体性や実践の一貫性については、子どもにとってより実効性のある支援が提供できるよう努めてまいります。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	・子ども達の原案をブラッシュアップ出来るよう取り組めています。	子どもの発達状況や興味関心を考慮した活動を検討し、支援の方向性を統一し、活動プログラムの実施後には、振り返りを行い、必要に応じて改善を加えることで、より充実した支援が提供できるよう工夫していきたいと思います。

の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・子どもからの意見・要望を反映し、プログラム内容に変化を持たせる工夫も行っていくように取り組んでいます。また、子どもたちのニーズや季節・行事に応じた活動を取り入れるよう努めています。 ・子ども達の自由な意見を尊重し、再現出来る妥協点と一緒に探すよう子ども達と話し合っています。	今後は、外部研修や他の事業所の取り組みなども参考しながら、より多様なプログラムを提供できるよう努めてまいります。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	職員間で子どもの状況を共有し、適切なバランスで個別・集団活動を取り入れるようにしています。	今後は、子ども一人ひとりの成長をより細かく支援できるように職員間の連携を強化しながら取り組んでまいります。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	支援開始前に必ず職員間で打ち合せを行い、支援終了後にも振り返りを行い、翌日以降の支援に生かしています。	職員間の情報共有を強化することが重要です。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%		振り返りの時間が十分に確保できない場合があるため、効率的な情報共有の方法を工夫することが求められます。今後も支援の質を高めるために、振り返りの重要性を職員全体で共有し、より充実した支援が提供できるよう努めてまいります。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	支援計画の見直しや職員間の情報共有に活用し、子ども一人ひとりにより適した支援を提供できるよう役立てています。	今後も、日々の記録を単なる作業としてではなく、よりよい支援につなげるための重要な情報として活用できるよう、職員全体で取り組んでまいります。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%		今後も、定期的なモニタリングを通じて、子ども一人ひとりに最適な支援を提供できるよう、放課後等デイサービス計画の適切な見直しと質の向上に努めてまいります。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	100%	0%		「4つの基本活動」を適切に組み合わせながら、子どもたちが楽しく充実した時間を過ごし、自立に向けた力を育めるよう支援を行ってまいります。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	具体的な取り組みとしては、活動プログラムや遊び、おやつの選択肢を提示し、自分で選ぶ機会を増やすよう努めています。	今後も、子どもたちが主体的に行動できる環境づくりに努め、自己決定の力を育むための支援の充実を図ってまいります。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	子どもの状況をよく理解している職員が適切に参画する体制を整えています。	今後も子どもの成長や課題について正確な情報共有を行い、より良い支援につなげることを目的に努めてまいります。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		関係機関との連携をさらに強化し、より包括的な支援体制の充実を図ります。特に、情報共有の円滑化や定期的な連携会議の実施を進め、子どもたちが安心して成長できる環境づくりに努めてまいります。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	年間計画・行事予定等の共有や子どもの下校時刻の確認、送迎時に学校の先生や支援員と連携し、その日の子どもの様子や特記事項を確認を行い、支援に活かせるよう、必要な情報を職員間で共有し、保護者へも適宜フィードバックするよう努めています。	今後も、学校との連携をさらに強化し、定期的な情報交換の機会を増やすことで、より効果的な支援体制を構築してまいります。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%		就学前に利用していた保育所・幼稚園・認定こども園・児童発達支援事業所等との情報共有を重視し、就学後も一貫した支援を提供し、子どもが安心して成長できる環境づくりを推進してまいります。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	卒業後も継続的な支援を受けられるよう、関係機関と連携しながら移行準備を進めています。	卒業後の支援が途切れることのないよう、保護者や関係機関との連携を強化し、こどもが安心して新たな環境へ移行できる体制を整えてまいります。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	職員の専門性を高めるため、研修の受講や情報交換を積極的に行ってています。	今後も、児童発達支援センターとの連携を強化し、専門的な助言や研修を活用することで、支援の質の向上と職員の専門性向上を図ってまいります。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	こどもたちや保護者のニーズなどを尊重しています。	今後も、地域との連携を深め、こどもたちが多様な人と関わりながら安心して楽しく過ごせる環境を整えてまいります。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	自立支援協議会等へ積極的に参加し、情報共有や意見交換を行っています。地域全体でこどもたちを支える仕組みを強化し、より良い支援の提供に努めています。	地域の支援機関とのネットワークを強化し、こどもたちや保護者が安心して生活できる環境づくりに貢献してまいります。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	子どもの発達の状況や課題について、保護者と日頃から積極的に情報を共有し、共通理解を持つことを大切にしています。こ	保護者との密な連携を継続し、子どもの成長を支えるための環境づくりに努めてまいります。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	83%	17%		家族が子どもの成長を支えるための知識やスキルを身につけられるよう、より充実した支援プログラムを提供し、保護者や家族との連携を深めながら、こどもたちが安心して成長できる環境づくりを進めてまいります。
保 護 者	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用者や保護者の方々が安心してサービスを利用できるよう、運営規程、支援プログラム、利用者負担について説明を行うことを大切にしています。	今後も、利用者や保護者の方が不安なくサービスを利用できるよう、わかりやすい説明を心がけ、丁寧な対応を継続してまいります。また、質問や不明点に随時対応できるよう努めてまいります。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	計画策定時には、こどもや家族の意向を確認する機会を設け、支援内容が適切であるかを検討しています。	今後も、こどもたち保護者の声を大切にしながら、支援を提供してまいります。こどもが安心して成長できる環境づくりを進めるとともに、保護者との連携を強化し、より良い支援の実現に努めていきます。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者が支援の目的や方法を理解し、安心して利用できるよう努めています。	保護者との十分なコミュニケーションを図りながら、支援計画を適切に説明し、同意を得るプロセスを大切にしています。また、子どもの成長や状況の変化に応じて計画を柔軟に見直し、保護者と連携しながら最適な支援を提供できるよう努めてまいります。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者や家族の子育てに関する悩みや不安に適切に対応し、必要な助言や支援を行うことを大切にしています。保護者が安心して子育てに取り組めるよう、日々の支援の中で相談の機会を設け、支援者として寄り添う姿勢を大切にしています。	今後も、保護者が安心して子育てができるよう、相談対応の充実を図り、継続的に支援を行ってまいります。また、保護者向けの研修や情報提供を積極的に行い、家庭と事業所が協力しながら子どもの成長を支えられる環境を整えていきます。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	83%	17%	保護者会などイベント行事を開催し、保護者同士つながりを深める機会を設けることで、子育ての悩みを共有し、支え合える環境を整えることを大切にしています。	保護者の声を取り入れながら、より充実した交流の場を提供できるよう努めてまいります。

ハ の 説 明 等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	こどもや保護者が安心して利用できるよう、苦情や意見を適切に受け付け、迅速かつ誠実に対応するように努めています。	こどもや保護者が安心して意見を伝えられる環境づくりに努めるとともに、苦情対応のプロセスを見直しながら、より適切な支援が提供できるよう改善を図ってまいります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	こどもや保護者が安心して利用できるよう活動報告や行事予定をお知らせするように努めています。また紙媒体だけでなく、コドモンを用い情報の提供しています。	保護者やこどもが必要な情報を適切に受け取れるよう、より分かりやすく、タイムリーな情報発信を行ってまいります。また、保護者の意見を取り入れながら、情報発信の方法を随時見直し、充実したコミュニケーションを図っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		個人情報保護の意識を高め、管理体制の見直しや研修の実施を継続しながら、より安全な情報管理を徹底してまいります。また、保護者の皆様にも個人情報の取り扱いに関する方針を明確にお伝えし、信頼される事業所運営を目指します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	こどもや保護者が安心して支援を受けられるよう、一人ひとりに応じた意思疎通や情報伝達の工夫を行うようにしています。	支援方法の見直しや職員研修を継続的に実施してまいります。また、保護者からの意見を取り入れながら、より良いコミュニケーションの方法を模索していきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	83%	17%	地域とのつながりを大切にし、こどもたちが社会との関わりを持てるよう、近隣を散歩して挨拶を交わしたり、積極的に交流が持てるよう工夫しています。	こどもたちが地域社会の一員として成長できる環境を整えています。また、地域住民の意見や要望を取り入れながら、より開かれた事業運営を目指してまいります。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	83%	17%	事故や緊急時に適切な対応ができるよう、各種マニュアルを整備し、職員や保護者への周知を行っています。また、定期的な訓練を実施し、実際の対応力を高める取り組みを行っています。	今後も、こどもたちの安全確保のために、最新の知見を取り入れながらマニュアルの見直しを行い、職員や保護者と連携しながら安全対策を強化してまいります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	非常災害の発生に備え、業務継続計画（BCP）を策定し、職員全員に周知徹底を図っています。BCPには、災害時の対応手順、重要業務の継続方法、緊急時の指揮命令系統などを明確に記載しており、定期的な見直しを行っています。また、職員と利用者の安全を確保するために訓練を定期的に実施しています。	BCPの定期的な見直しと訓練の実施を継続し、非常時においても安全かつ円滑に業務を遂行できる体制を強化していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	子ども一人ひとりの健康状態を把握し、安心して過ごせる環境を整えるために事前に看護師を中心にアセスメントシートを作成し、確認を行っています。	日々の体調チェックを行い、異変が見られた場合は速やかに保護者へ連絡し、適切な対応を取るよう心掛けています。今後も、子どもたちの健康管理を徹底し、安全で安心できる環境を提供してまいります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	食物アレルギーのある子どもが安全に過ごせるよう、事前確認と情報共有のために保護者からアレルギーの有無を確認し、アレルゲンの種類、症状の程度、緊急時の対応方法について、職員全員が共有します。また、食事やおやつの管理も同時に行います。アレルギー症状が発生した場合は、迅速に保護者へ連絡するとともに、必要に応じて救急対応を行います。保護者と連携しながら、定期的に対応方針を見直します。	今後も、安全で安心できる環境を提供し、子ども一人ひとりに寄り添った支援を行っていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	子どもたちが安全に過ごせる環境を整え、安心して支援を受けられるよう、安全計画の策定および必要な研修・訓練を実施しています。	今後も安全管理を最優先に考え、子どもたちが安心して活動できる環境を維持していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	施設の安全管理方針や緊急時の対応手順について保護者へ説明し、定期的に安全計画の見直しを行っています。また、その内容を年に1回、共有する機会を設けています。災害や緊急時の対応として、保護者と緊急連絡先を事前に確認し、万が一の際に迅速に連絡が取れる体制を整えています。	家族との連携を深め、子どもたちが安全に安心して過ごせる環境づくりに取り組んでまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハット事例が発生した場合、職員は「ヒヤリハット報告書」を作成し、発生した日時、場所、状況、子どもの行動、職員の対応、事故につながる可能性の有無などを詳細に記録します。また、過去のヒヤリハット事例を「ヒヤリハット事例集」としてまとめ、全職員が閲覧できるようにしています。再発防止策として、必要に応じて施設の安全設備や支援方法の見直しを行っています。	今後も、ヒヤリハットの共有と再発防止策の取り組みを継続し、子どもたちが安全で安心して過ごせる環境の維持と向上に努めてまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	職員の意識向上と適切な支援の実践を目的として、年に1回以上、虐待防止に関する研修を実施しています。	今後も、虐待防止に向けた取り組みを継続し、すべての子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束は原則として行わないことを基本方針としています。しかし、やむを得ず身体拘束を行う場合には、適切な手順を定め、組織的に判断し、事前に子ども本人や保護者へ十分な説明を行い、了解を得た上で「放課後等デイサービス計画」に記載するよう徹底しています。	子どもたちの尊厳と安全を守るために、適切な支援体制の構築を継続してまいります。